

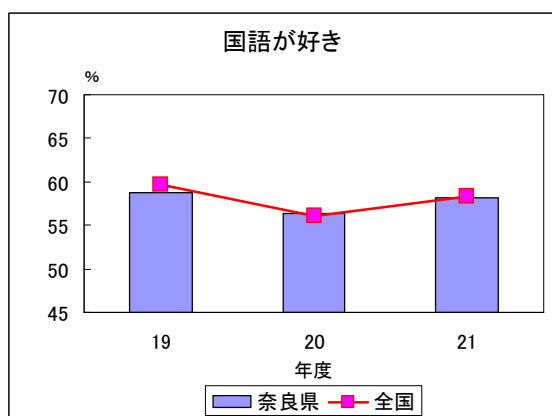
# 児童の学習意欲を高める授業モデルの構築

## 一言語活動の充実を図る視点から

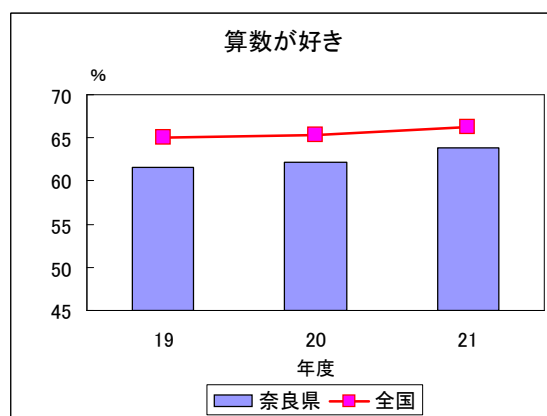
### 第1章 総論

#### 第1節 研究課題設定の背景

全国学力・学習状況調査から明らかになった本県児童の課題の一つは、学習意欲をいかに向上させるかということである。問題の平均正答率は全国平均を上回っているが、児童質問紙の「国語の勉強は好きですか」、「算数の勉強は好きですか」の質問項目を見ると、「国語の勉強が好き」（「当てはまる」又は「どちらかといえば、当てはまる」）と回答した児童の割合は全国平均レベルであり、「算数の勉強が好き」と回答した児童の割合は、各年度とも全国平均を2、3ポイント下回っている（グラフ1、2）。また、中学校になると、数学だけでなく、国語も全国平均を下回っている。

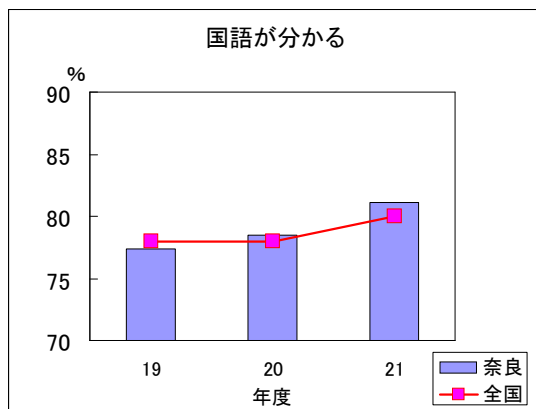


グラフ1 国語が好きと回答した児童の割合

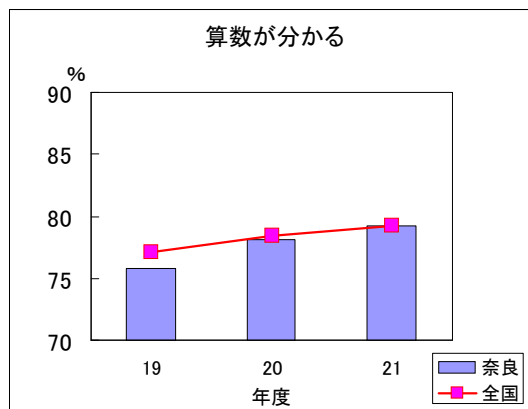


グラフ2 算数が好きと回答した児童の割合

本県児童の学習意欲にかかわるこのような状況は何に起因するのであろうか。まず思い浮かぶのは授業が分からないからではないか、ということである。そこで、児童質問紙の「国語の授業の内容はよく分かりますか」、「算数の授業の内容はよく分かりますか」の質問項目について、同様に3年間の回答状況を調べてみた（グラフ3、4）。



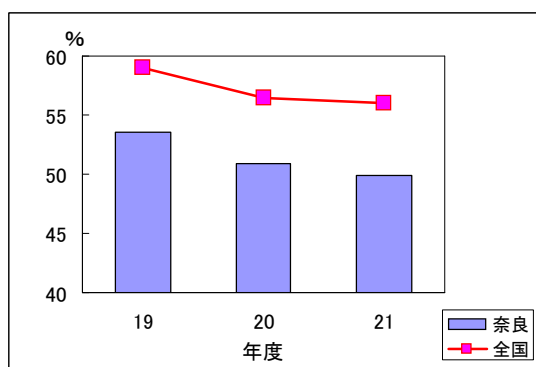
グラフ3 国語が分かると回答した児童の割合



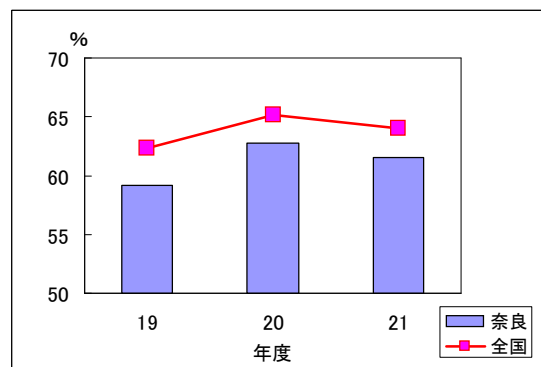
グラフ4 算数が分かると回答した児童の割合

グラフ3、4からは、国語、算数ともに、「授業が分かる」と回答した児童の割合が全国平均に近づき、国語では上回るようになってきていることが分かる。各学校で分かる授業を目指して工夫していることが成果を上げていていると思われる。本県の児童の意識としては、授業が分からないから勉強を好きになれない、ということではないようである。

授業は分かるのに、勉強が好きではないとすれば、その原因は何だろうか。児童質問紙の結果をさらに見ていくと、「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」という質問項目に対する肯定的な回答（「当てはまる」又は「どちらかといえば、当てはまる」）の割合が全国平均を大きく下回っていることが分かった（グラフ5）。また、「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」の項目についての回答状況も同様であった（グラフ6）。



グラフ5 国語の授業で必要に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていると回答した児童の割合



グラフ6 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないかを考えていると回答した児童の割合

これらのことから、本県では知識の習得という面では指導の成果が見られるが、自分の考えを表現したり、学びの意義を実感できたりするような指導上の工夫が十分ではなく、そのことが学習意欲の課題とつながっているのではないかと考えた。自ら考え表現する指導を充実させることは児童の主体的な学びにつながり、また学んでいることの意義が実感できることは学ぶ喜びにつながる。それらは児童の学習意欲を高める上で重要な要因になるからである。そこで、主体的な学びにつながるような、あるいは学んでいることの意義が実感できるような言語活動の充実に取り組むことで、児童の学習意欲の向上につなげられるのではないかと考えた。

言語活動の充実は、今回の学習指導要領改訂における教育内容に関する改善事項にあげられていることは周知の通りである。学習指導要領総則では、言語活動の充実にかかわって次の通り示している。

各教科等の指導に当たっては、児童の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童の言語活動を充実すること。  
 (『小学校学習指導要領 総則』)

言語活動の内容は多岐にわたっている。学習指導要領改訂にともなう文部科学省の説明資料では、各教科における言語活動の充実について、次のような例を示している。

- 観察や調査・見学などの体験的な活動やそれに基づく表現活動の一層の充実（社会）
- 三角形、平行四辺形、ひし形及び台形の面積の求め方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明するといった算数的活動の充実（算数）
- 観察、実験の結果を整理し考察する学習活動や、科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりするなどの学習活動の充実（理科）

（「平成20年度小学校新教育課程説明会資料」）

このような学習活動は、特に目新しいわけではなく、これまでも行われてきたことである。しかしながら、こうした学習活動を言語活動としてきちんと意識した上で、指導計画に適切に位置付け、言語に関する能力を育成することが、今求められているのである。

## 第2節 研究の方法

「言語活動の充実を図ることで児童の学習意欲を高めることができる」という研究仮説のもと、学習意欲を高める授業モデルを作成したいと考え、小学校の国語、社会、算数、理科の各教科及び外国語活動において、次の各単元をテーマに研究を行った。

- 国語 「万葉集（短歌）に親しもう～発見！！万葉集でみる平城京から」（奈良市立西大寺北小学校第4学年）
- 社会 「わたしたちの暮らしをささえる情報」（広陵町立真美ヶ丘第二小学校第5学年）
- 算数 「単位量あたりの大きさ」（葛城市立新庄小学校第6学年）
- 理科 「電気で明かりをつけよう」（大和郡山市立筒井小学校第3学年）  
「振り子時計を作ろう」（上牧町立上牧第三小学校第5学年）
- 外国語活動 「英語でDVDを作ろう」（大和高田市立菅原小学校第6学年）

研究に当たって、その成果を検証するため、それぞれの単元の指導前と終了後に共通のアンケートを行うことにした。その質問項目は次の通りである。

（単元指導前）

- ・ ○○（教科等）の授業は好きですか。
- ・ ○○の授業で、自分の考えを話したり書いたりするのは好きですか。
- ・ ○○の授業で、自分の考えを話したり書いたりする機会は多いと思いますか。

（単元終了後）

- ・ □□（単元）の学習は、どのように感じましたか。
- ・ これからも、授業の中で、自分の考えを話したり書いたりしたいですか。
- ・ □□の学習をする前と比べて、○○（教科等）の学習は好きになりましたか。

## 第3節 成果と課題

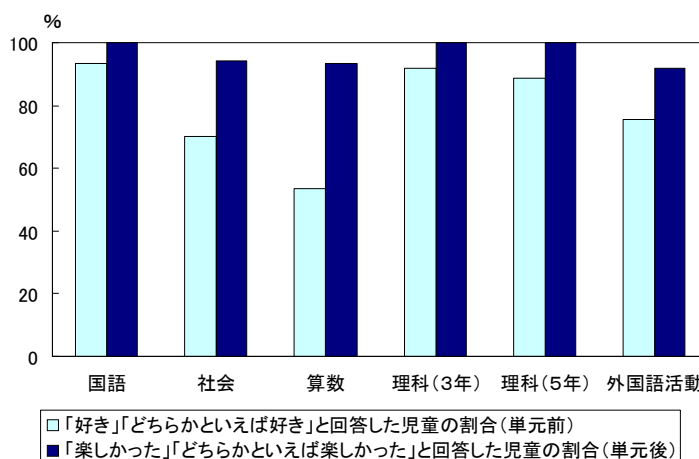
各教科等においてどのような視点で言語活動を充実させようとしたか、また各教科等におい

て作成された単元プランやそれぞれの成果については第2章に委ねるが、単元の実施前後に実施したアンケートの結果を示して、研究成果のまとめに代えたい。

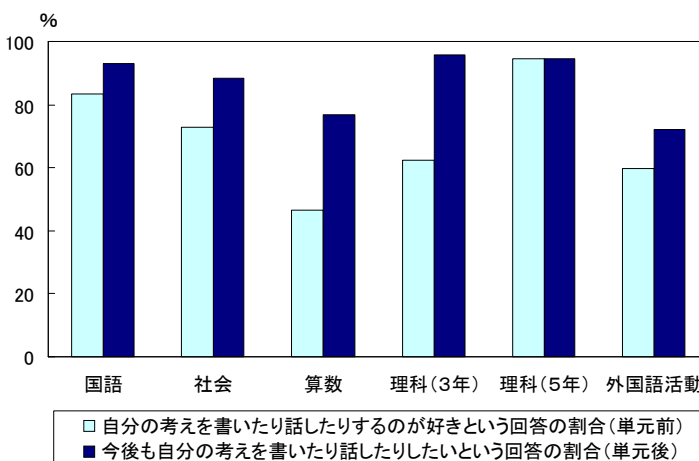
単元前アンケートの「○○（教科等）の授業は好きですか。」の質問について、「好き」「どちらかといえば好き」と回答した児童の割合はまちまちであったが、単元後のアンケートでは、どの教科等においても大多数の児童が「楽しかった」「どちらかといえば楽しかった」と回答している（グラフ7）。このことから、言語活動の充実を意識した授業が、児童の学習意欲を高める上で一定の効果があったと考えられる。

また、「授業で自分の考えを書いたり話したりする」学習活動についての児童の意識を見ても、どの教科等においても好意的な回答の比率が高まっていた。指導者が言語活動を意識し、工夫することで、児童の言語活動に対する意識も前向きになったものとする。

もちろん、「楽しい」「好きだ」という意識を、そのまま「学習意欲が高い」と見なしてよいかという点については議論が必要と思われる。また、指導計画における言語活動の適切な位置付けや評価の在り方についても更なる研究が必要である。



グラフ7 児童の学習意欲の変化



グラフ8 言語活動に対する意識の変化

### プロジェクトチーム

奈良市立西大寺北小学校教諭	星原 由佳	【国語】			
広陵町立真美ヶ丘第二小学校教諭	中條 佳記	【社会】			
葛城市立新庄小学校教諭	真田 昇	【算数】			
大和郡山市立筒井小学校教諭	池島 章之	【理科】			
上牧町立上牧第三小学校教諭	高橋藤一郎	【理科】			
大和高田市立菅原小学校教諭	和田 忍	【外国語活動】			
県立教育研究所 教科指導係長	吉原 義彦				
情報教育係長	廣田 清雄				
研究指導主事	小崎 誠二	阪口 浩子	吉岡 淳	松本 哲志	
	植村 泰行	中永 利法	堀内 秀規		